

本書のご利用にあたって

改訂にあたり、大きく下記2点を変更しています。
本書のご利用にあたっては十分にご留意ください。

1 HbA1cの表記

1) 国際標準化に伴う表記法の変更

- 従来よりわが国で使用されているJDS値は、海外で使用されているNGSP値と比べ約0.4%低値となっており、整合性がとれないという問題点がありました。そこで、今後はJDS値に0.4%を加えた「国際標準値」へと表記を変更することを日本糖尿病学会が2010年に発表しました

$$\text{HbA1c (国際標準値)}^* = \text{HbA1c (JDS値)} + 0.4 \\ \doteq \text{HbA1c (NGSP値)}$$

※ 国際標準値はNGSP値に相当する値ですが、厳密にはNGSP値そのものではないことにご留意ください

- なお、国際標準値への表記変更にあたっては、移行期間を設けて段階的に進めることになっています。本書発行時点では日本糖尿病学会より次のように告知されていますが、最新の動向については学会ホームページにてご確認ください

《日常診療での使用》¹⁾

日常臨床・検診・健康診断などの場においては、当面は従来のJDS値で表記されたHbA1c (JDS値)を継続して使用する。十分な広報活動を行い、本学会が別途告示する日時(国際標準化変更日)を以て、HbA1c (国際標準値)に全国一斉に変更する。

《総説・著書における表記》²⁾

HbA1cの具体的な数値を記述する場合には、国内データについてはHbA1c (国際標準値)あるいは、HbA1c (JDS値)のいずれであるのか明記する。

2) 本書におけるHbA1cの表記

- 本書発行時点では国際標準化の移行期間ではありますが、今後は国際標準値で統一されるとの見通しから、原則としてHbA1c (国際標準値)を用いて解説しています
- ただし、海外文献から引用している場合はHbA1c (NGSP値)、和文文献から引用している場合はHbA1c (JDS値)と記しています

2 内服薬の用量の表記

- 厚生労働省の報告書³⁾にもとづき、内服薬の用量は1回量を基準としました
- 例えば、初版では「6mg/日、分3」と表記されていたものについては「1回2mg、1日3回」という表記に改めています

◆ 文献

- 1) 「糖尿病治療ガイド2010 (糖尿病学会/編)」より引用
- 2) 日本糖尿病学会発表の「新しい糖尿病診断基準と国際標準化HbA1c運用について」より引用
- 3) 厚生労働省『内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会報告書 (平成22年1月29日付)』
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/01/s0129-4.html>

〈日吉 徹〉